

解説

【日蓮聖人における釈尊】蓮長こと日蓮聖人の京畿遊学は仁治三年(一一四二)から建長四年(一一五二)頃の十年にわたったとされています。その詳細は多年の日蓮聖人の研究においてもあまり明らかにされていませんが、鎌倉に比べれば当時の京都の仏教界ははるかに充実していたはずで、比叡山に入ってから天台、真言、律など日蓮聖人はあらゆる門を叩いて学び、隠しようもないその才幹で論を張ります。また神道や儒学にも教えを乞い、和歌の師にもついたりしたようです。そのように広く深く学問する中で日蓮聖人は、法華一乗、釈尊一伝へと思想を収斂していきました。すなわち、日蓮聖人生誕の十年前にこの世を去った法然の阿弥陀一仏信仰と対立し、真言との接近を許す天台にも真実を見いだせず、やがて釈尊が菩提樹の下で悟りを開いたように、清澄山の頂で立教開宗を果たすことになりました。

【釈尊の悟り】

誕生は紀元前六〇〇年頃とも五〇〇年頃ともされる釈尊はインドの王族に生まれまし。人はなぜ、生老病死という運命を背負っているのか、と長い間悩み、ついに二十九歳の時に妻と子を置いて宮殿を去り、出家して遊行(僧が諸国をめぐる歩く旅)に出ます。悟りを得たのは三十五歳、菩提樹の木の下だったといわれています(出家・成道の年齢には諸説あります)。釈尊は人間の生きる道を明らかにし、その実践として悪い行為をせず、生活を清めることを説きます。

11月のカレンダー

1	火	14時 祈願祭
2	水	
3	木	文化の日
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	14時 唱題行
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	14時 御会式
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	

●11月の感謝祭は、御会式法要に代えさせていただきます。

12月の行事予定

- ・12月01日(木) 14時より 祈願祭
- ・12月10日(土) 14時より 唱題行